



携帯サイトQRコード

い い ぶ

IRYOHOJIN

IWAKUNI

BYOIN

◇ご挨拶◇

岩国病院は、今秋、サービス付高齢者住宅「プランドール響」をスタートさせます。

1884年6月、熊谷茂樹先生が東京帝国大学医学部卒業後、千葉医学校教授の職を辞して岩国町義済堂内に「私立岩国病院」を開設されたことより、当院の歴史ははじまりました。

病院入院医療が、福祉・医療費削減政策により年毎に制限される中、障害のある人々のお世話が在宅介護へとシフトしてまいりました。一方女性の社会参加が強く要請される状況や独居老人の増加などから、これらの患者さんたちを家庭で介護するのは難しいという現実があります。

私たちは、岩国病院の歴史、満130周年を記念して、院祖熊谷茂樹先生の「この地に医療の灯火を」という志を受け継ぎ、今回快適で安心できる介護を提供する施設、「プランドール響」を新設する運びとなりました。医療法人岩国病院の医療レベルそのままに、リーズナブルな料金でご提供できる新しい介護のスタイルをぜひご利用いただければと願っております。

医療法人岩国病院院長 庄司孝

「安心のすまいを提供」

錦見3丁目（JT跡地）に「^{ひびき}プランドール響」を開設します

最期まで住み慣れた地域で暮らしたい。

そんな願いをかなえようと、医療法人岩国病院は今秋、

錦見3丁目にサービス付き高齢者住宅（50部屋）を開設します。

岩国病院と一体の運営で、岩国病院のスタッフが健康管理と医療的なケアを全面的にバックアップ。

安心して老後を迎えられるすまいを提供します。



第三回パーキンソン病講演・相談会開催 in シンフォニア岩国

去る4月26日(土)、パーキンソン病患者およびご家族、医療福祉関係者92名を対象に、久留米大学名誉教授・庄司紘史Dr、脳神経センター大田記念病院・栗山勝院長、医師会病院リハビリテーション部・崎本充理学療法士による講演・相談会が開催され当院内科看護師・後順子も発表を行いました。

参加者は、在宅介護、新薬、認知症をともなうケースなどの豊富な題材に興味深く耳を傾け多くの質問も寄せられました。



「タビ」と「ミナト」☆ 庄司 孝

保健所の野犬狩りに逃げ遅れた二匹の仔犬が助けを求めているとの情報が防府方面から入った。生後一ヶ月(らしい)黒に近いこげ茶の仔犬二匹を連れた防府のボランティア清水さんが我が家の玄関に現れたのはその数日後であった。

まだほんの乳児で、二月の寒さにブルブルふるえて母親のおっぱいを探らしい様子が何ともいじらしく、去年14歳で亡くしたラブラドルがブラックだったこともあり、これはこの二匹を飼うのが神のご意思だと直感した。かくて我が家の家族に加わった二匹だが名前はまだない。長女の提案で、男の子は三田尻港で拾われたので「ミナト」、女の子は前足の先が白く、白足袋を履いているように見えるので「タビ」と名づけられた。その晩は、二匹とも相手の性器をチュッチュッと吸っては、お互いの身体の下にもぐりこもうとするのでなかなか寝付かれない。母親も今頃は子供を捜しているかなあとチョットほろりとする思いである。

はじめは犬用ミルクを飲ませようにもうまく飲めないし、哺乳瓶の吸い口を探すようなことだったが、さすが野良犬のたくましさ、見る見る成長してミルクにひたした犬餌タブレットをガツガツと飲み込むように争って食べて、モットモットと要求する。自分の皿が空っぽになると相手の皿に口を突っ込んで一粒でも横取りしようとする。お互い相手の皿の方がおいしく思えると見えて、他人の空の皿を一生懸命なめまわす。

我が家に来てから一ヶ月もすると、退屈してくると相手にチョッカイをだし、じゃれあっているうちにだんだん本気になって体当たり、噛み付き、ひっかき、後足で立ち上がってパンチパンチと殴りあう。毎日新しいイタズラを考え付き家中は暴風一過のありさまだ。次なる悪行はまた次回の報告で。

